

# 口蹄疫の早期終息を願う

4月20日宮崎県において発生した口蹄疫の疑似患者は292例、処分された飼養牛・豚等の頭数は21万1608頭となり、ワクチン接種分を含む28万8643頭全てが殺処分されました。

4月20日宮崎県都農町の繁殖農家において口蹄疫と疑われる飼養牛が発見されたことと報じられて以来、約3ヶ月で終息しましたが、口蹄疫のウイルスの存在におびえている現在であります。この間、都城市と隣接する我が曾於市への侵入を阻止しようと昼夜を問わず消毒作業に従事する市職員また農協職員、農業共済組合職員、ボランティアの皆さんのご苦労に対して心から敬意を表するものです。

曾於市においては、4月21日に畜産農家への消毒剤配布を決定し、いち早く曾於市口蹄疫侵入防止対策委員会設置、子牛畜産農家に対し見舞金を交付する等、その対応の早さには一応評価できるものと言えましょう。

また曾於市議会においては、5月28日臨時議会が開催され、同日、国に対して「口蹄疫に対する総合的な支援対策の強化と充実を求める意見書」を可決提出されたところであります。

また、口蹄疫発生による予算については、口蹄疫対策支援事業（子牛育成支援対策事業見舞金3ヵ月を限度に1頭につき月1万円を交付）家畜防疫及び環境保全対策事業、畜産振興協議会事業、畜産振興基金事業操出金（50頭分）として総額2億5562万4千円が計上され議決されたところであります。4月から中止されていた子牛セリ市は7月末から再開されており、子牛2万頭に影響が出たといわれている。この間の畜産農家はもちろん各方面での経済的、精神的影響、及び負担は計り知れないものがあり、国においても特段の支援対策を講じてほしいものです。

今後は、国の責任において口蹄疫の発生原因究明と侵入経路の特定が望まれるところであります。（谷口）



車両消毒マット設置準備

水と私たちは、切っても切れない関係にあります。私たちの体は、大部分が水分で出来ていること。食べる米や野菜も、全てに水が関係しています。水があるからこそ、私たちは生きていられる。しかし、水は時として私たちに襲い、災害をもたらし、命まで奪うこともあることを忘れてはなりません。水の大切さ、恐ろしさを忘れずに、大切な命、自分で守りましょう。

（九日）



表紙によせて

## 編集後記

「口蹄疫」に始まり「口蹄疫」に終わった6月定例会でした。ほとんどのイベントや集会等が中止になり、緊張感の中での議会でした。1日も早い終息宣言が待たれます。

無気力感・閉塞感が漂う中でゲリラ的集中豪雨による災害の情報が飛び交う今日この頃です。

そのようななかであつて、宇宙探査機「はやぶさ」が一次行方不明ともいわれましたが、7年間の歳月をかけ満身傷だらけになりながら、地球に帰還するという快挙や、サッカーW杯南アフリカ大会での我がサムライジャパンの活躍に、国民誰しも感動、感激を与えられました。

青少年に大きな夢と希望を持って羽ばたいてほしいものです。

（谷口）

## 私たちが

作っています

いろんなご意見を  
お聞かせ下さい。



## 議会広報等調査 特別委員会

委員長 大川内富男

副委員長 今鶴 治信

委員 九日 克典

委員 八木 秋博

委員 五位塚 剛

委員 谷口 義則

発行責任者

議長 大津 亮二